

2025年3月 昭和鯨城会会報 117号

# 昭和こいろう会便り



## 令和6年度を振り返って

会長 高島 善行

コロナ禍が収まり、前年度から殆どの行事がコロナ前のように出来るようになりましたが、本年度は台風10号接近のため9月の「あそびの広場」と、衆議院選挙投票日と重なったため10月の「昭和区区民まつり」が中止になり、土鈴絵付け体験が残念ながら出来ませんでした。クリーンパートナー等の社会奉仕活動や毎月の行事（裁判所見学、ブラザーミュージアム見学、キリンビール工場見学等）については予定どおり実施でき会員相互の親睦を深めることができました。また、10月の趣味の作品展は盛況のうちに終わることができましたし、16区フェスティバルについては、昨年が続いて準優勝できました。次年度も充実した活動ができればと願っています。

# 鯨城会活動

## 第7回鯨城会16区フェスティバル実施

32期（地域A） 村雲 堀田 兼義

令和6年11月14日、第7回鯨城会16区フェスティバルが東スポーツセンターで開催された。

参加人員は520名以上で、華々しい大会となった。

まず主催の鯨城会から開会宣言及び会長挨拶があり、続いて鯨城学園副学長に来賓挨拶をいただいたのち、選手宣言が行われた。

準備体操を参加者全員で行い、競技内容のルール説明がなされ、競技に入った。最初のゲームは「○×クイズ」。我が昭和区は好位置の2位に。



開会宣言



ボッチャ風景



準備体操

次は「ボッチャ」。お昼休憩に入り各区の趣向をこらした応援タイムが行われた。区毎に替歌などに乗せ、名所や名物などを折込み盛り上げていた。

午後からは「龍の玉送り」、「玉入れ」が行われ競技は終了した。

アトラクションとして民謡クラブなどの協力により民謡踊りが行われた。

その後閉会式、成績発表があり我が昭和区は、総合でも2位に食い込んで表彰状。

代表して高島善行氏が受領した。参加者の皆様おつかれさま、ガンバリました。



玉入れゲーム



龍の玉送りゲーム



民謡踊り



記念写真



賞状

# 鯨城会活動

## 鯨城学園38・39期生と地域ミーティングを開催

33期（生活A）川原 山田 浩

鯨城学園では、卒業後に区鯨城会への加入等を通じて、地域でのボランティア活動を促進するため、年3回地域ミーティングを実施している。昨年秋には39期生（1年生）と38期生（2年生）に、令和7年初めにも卒業間近となった2年生に2度目の区会説明会が開かれ、昭和鯨城会からは、会長及び4委員長と女性2名が参加して再度入会を勧めた。

### 1 39期生（1年生）との地域ミーティング

令和6年11月22日（金）、暮らしクラス48名（昭和区在住4名）のうち参加した約30名に対し、昭和鯨城会からは会長、委員長等6名が出席。

高島会長からスライドを活用して、より具体的に名古屋市鯨城会と昭和鯨城会の活動状況について説明がなされた。

さらに、昭和区社会福祉協議会の五百田主事からも同協議会の目的、活動概要等についてボランティア活動を中心に説明がなされた。



39期生に対し高島会長による説明

### 2 38期生（2年生）との地域ミーティング

令和6年12月4日（水）、昭和区在住の38期生14名のうち9名が、昭和鯨城会からは各委員長及び女性2名が参加。自己紹介と各自のボランティア活動について発表したあと、座の雰囲気をもたせるため、片岡ボランティア委員長によるトランプマジックの披露があり、大いに盛り上がった。最後に、ボッチャ等の同好会やボランティア活動について質問があり、それぞれ担当委員長が説明して、卒業後の入会を勧誘した。



38期生に対する説明



トランプマジック

### 3 38期生に対する卒業間近の区会説明会

令和7年1月24日（金）、昭和鯨城会からは会長以下7名が参加してそれぞれ自己紹介を行ったあと、当日出席者10名に対し、会長から昭和鯨城会の活動状況を説明するとともに、活動中の同好会や学区会等の質問に答えるなどして再度入会勧誘を行った。



38期生に対する会長説明

# 行事レポート

## 紅葉見物に行ってきました

37期 (環境) 吹上 横山 正子

11月27日(水)、東山動植物園へ紅葉見物に行ってきた。前日の大雨がうその様に晴れて、暑くも寒くもない、まさに秋晴れの日となりました。

参加者11名が地下鉄星ヶ丘駅に集合。そこから、おしゃれなカフェなどを横目に東山動植物園の星ヶ丘門に向かいました。なだらかな坂道を登りながら「いつまで続くのかしら……」と、つい弱音が出てきそうになったころ、ようやく、植物園が見えてきました。ああ、一安心。(もう少し近いといいのになあと思うのは、日ごろの運動不足のせいでしょうか?)



奥池の紅葉



也有園の紅葉

歩いていると、植物だけでなく色とりどりの帽子を被った子どもたちの、遠足でしょうか、連れ立つ姿があちらこちらで見られました。子どもたちのほほえましい情景に自然と頬が緩みます。また、婚礼衣装のカップルにも数組出会いました。こちらも美しい! 前撮り撮影のようです。最近公園や施設でよく見かけます。中には式は挙げずに写真だけ撮るという方も増えているようで、時代の流れを強く感じます。



温室前にて

奥池をぐるりと周り、温室までを散策、小一時間の紅葉見物となりました。その後、多くの方が動物園へ移動して楽しまれたようです。参加者の皆様、お疲れさまです。今回は不参加だった方も機会があればぜひ、東山動植物園をお訪ねください。おもしろい発見や出会いがありますよ。

入場券を各自で購入。(敬老パスや敬老手帳を提示すれば一人100円です。ちなみに年間パスポートは600円。1年間利用できるの、四季の移ろいが楽しめます)

エントランスで挨拶と簡単な行程説明のあと、いざ紅葉見物へ。万葉の道を通り抜けて奥池に向かいました。万葉の道には植物と、それにまつわる歌が書かれた木札が立っていますが、文字が読みづらく、花も咲いていなかったので、ついスルーしてしまいました。(プラスチック製?の新しいタイプの札もありましたが、個人的には墨で歌が書かれた木札が好きです)

今年は猛暑が続いた影響で、どこも紅葉は遅いとのこと。東山動植物園もご多分に漏れず、遅めのようでした。それでも、緑を残した紅葉もなかなか美しく『錦を織りなす姿』に見とれてしまいました。

歩いていると、植物だけでなく色とりどりの帽子を被った子どもたちの、遠足でしょうか、連れ



園児の遠足



奥池での記念写真

# 行事レポート

## 桜花学園高校インターアクトクラブとの交流会に参加して

34期 (美術B) 滝川 中山 秀治

令和7年1月11日(土)、例年1月に開催する桜花学園インターアクトクラブ(顧問;河合保昌先生)との交流会が行われました。

本会参加者は13名(飛び入り含む)、生徒さんは1年生と2年生の16名が参加しました。

教室内で5班に分かれ、班で各自の自己紹介として3項目①名前、②好きな色、③どのように呼ばれたいかの会話で始まりました。

続いてアイスブレイクとして、各班で「60を言ったら負けゲーム」で和みました。

その後に桜花学園インターアクトクラブの4つの活動内容の紹介と今回の活動の「しあわせ届け隊」



イワシの開きゲーム

としての生徒による「ミュージックベルの演奏」と、全員で手による「いわしの開きゲーム」及び生徒による「バルーン



5班に分かれ自己紹介



ミュージックベルの演奏

アート」の実演が行われました。

そして、本会の活動紹介を行事委員長の水野さんが話されました。休憩を挟みレクリエーションとして班対抗のゲーム「謎解きクイズ」「絵しりとり」「いい線行きましょう」で、私たち又は生徒の各自の得意分野が違うことを感じました。

時計をみると予定の1時間30分があっという間に過ぎ、皆さん楽しかった顔をしていました。

最後に生徒さんも交えた記念写真を撮り、生徒さんに送られ学園を後にしました。

帰り道で「孫と楽しく遊んだ」という声が聞こえてきました。

桜花学園生徒の皆さんと顧問先生ありがとうございました。



バルーンアートの実演



絵しりとり



参加者による記念写真

# 学区会活動紹介

## 八事学区会 “マジックショー” の報告

28期 (園芸) 八事 大野 政博

昭和鯉城八事学区会ではコマダ本店で開催される毎月の定例会(6～8名程度の参加)の他、定例会の前に2回/年、檀溪橋から杵中の交差点までのゴミ拾い活動があります。

9時に八事小学校北の交差点に集合し約30分間です。その後ゴミの分別をし(家庭ゴミの収集車が来る日まで保管)、10時コマダに集合となります。ゴミの量は毎回2袋程度ですが、タバコの吸い殻は主要道路のゴミ拾いに比較し少ないように感じます。以前は食事会や興正寺散策、あるいはコロナが蔓延している時は定例会を取りやめ、山崎川散歩も実施されました。

今回は八事学区会として初の試みとなる、「メンバーによるマジックショー」と題した懇親の場を設けました。12月9日(月)に午前中は定例会を開催し、午後1時に飲物持参で八事コミ



マジックショー会場

セン集合。当然のことながら会員が高齢のため何人参加されるか心配していましたが、参加希望されていたメンバーがほぼ全員で13名集まりました。

お菓子と場所代で250円/名徴収。場所代が2部屋3,000円と高くなってしまいました。理由はコロナ禍以降部屋の収容人数が厳格になったためでした。当初、マジックだけを予定していましたが、時間が余ると思い、他のメンバーにも声をかけたところ、詩吟・絵・歌・オカリナが披露されました。特に素朴で澄んだオカリナ演奏の音色にうっとりしました。予定時間の1時間半があっという間で短く感じ、皆さんの芸達者ぶりに感心するばかり。未だ他にも声をかければ気持ちよく受けて頂けそうな芸達者もおられるようで次回が楽しみです。

定例会には色々な都合で出席できない会員も、一堂に会し、楽しく過ごせたらいいという目的もありましたが、内容的に盛り



マジック実演

りだくさんとなってしまい、おしゃべりができなかったことが残念であり反省点でした。



オカリナ演奏

# 会員の広場

## 博物館を楽しむ N011 青春18きっぷ 山陰山陽一周 5日旅

31期 (地域A) 松栄 細野 博行



**青春18きっぷ** は令和6年12月から利用条件が変更となった。いままでは有効期間5日の好きな日が選べて同じ行程なら数人が一緒に利用できた。それが指定日より5日間連続となり、二人での利用もできなくなり使い難くなった。5日間連続**乗車する旅**は、12月中旬に岡山から伯備線に乗りかえ新見市に向かった。新見藩は元禄時代の大名であった藩主は御殿に住み政務をした。江戸時代の区割や町屋が残り、1時間半ほどウォーキングした。雪が残る中国山地を越えて米

子市には18時に着いた。**2日目**朝にいった米子城址は中海に面した小高い湊山に大小天守が造られていた。市役所の向いに山陰歴史館があり、米子城の模型や市の生い立ちを展示している。米子駅から松江駅まで50分。雨のなか30分歩くと松江城が見えてきて、お堀の脇にある松江歴史館に入る。建物は本丸御殿風の立派な佇まいで、受付やロビー、休憩スペースには全面に畳が敷かれている。展示内容は物足りなく格好だけに重きをおいた博物館だった。松江城は国内現存天守12城の1つで、築城年代を判別できる祈祷札が見つかったため平成27年に国宝に指定された。外観は4重、内部は地下1階・5階建ての構造で、現存天守のなかで高さ、平面面積とも姫路城につぐ2番目の規模を誇る。当時の大工の水準の高さに感心する。松江駅からは西に莊原駅まで40分。南へ40分歩くと荒神谷博物館に着く。荒神谷遺跡から4列に並んだ銅剣が358本発見され日本中の大ニュースとなった。さらに銅鐸6個と銅矛も16本出土した。国宝となり遺跡では模擬銅剣や銅鐸が並べられ、出土の状況が再現されていた。今夜泊まる浜田駅に18時に着いた。**3日目**は浜田市から益田市に向かう。1両のみのディーゼルカーで曇天のなか荒れる日本海を眺めるのも寂寥感があるが、過疎化が進んでいるのがより寂しく感じた。益田から津和野にゆく列雪は雪で竹林が線路に覆いかぶさり運休となっていた。待ち時間で訪れた石見美術館は外壁と屋根とも28万枚の赤い石州瓦で覆われ異様な外観でもある。代行のバスが津和野町につくと積雪が15cmもある。城下町で栄え小京都といわれ文化施設も多く本町通りを行くと森鷗外記念館があり生家も移設されている。ほかに藩校養老館、郷土館がある。日本遺産センターのビデオでみた石見神楽「ヤマタノオロチ」は迫力十分だ。民宿の夕食に刺身やホイル焼き、天ぷらなどがでて美味しかった。また靴が雪でズブ濡れとなったがストーブで乾かしてくれ有り難かった。**4日目**は駅前にある安野光雅美術館では絵画も種類が多く見応えがあった。津和野駅から新山口駅へ、山陽本線に乗車して山口県柳井駅で下車した。国の重要伝統建物群に選定され、商家博物館むろやは油商で船を50隻も保有していた。さらに広島駅まで3時間乗車し泊まった。**5日目**は広島駅から東へ。東広島市西条駅では7軒の酒醸造所があり酒都を散策して、安芸国分寺跡に立ち寄ってから名古屋への電車に乗った。



津和野森鷗外記念館にて

この旅では乗車距離1500キロ、乗車時間30時間だった。

# ボランティア報告

## クリーンパートナー

33期（生活 A） 御器所 片岡 晴彦

12月18日(水)「クリーンパートナー」として、御器所交差点から東郊通り2丁目交差点間、約1.5kmの歩道の清掃を行いました。会員8人参加、気持ちの良い爽やかなお天気でした。

拾ったタバコの吸い殻などの本数をカウントし一年前と比較した結果、大きな変動はありませんでした。吸い殻の本数が520本から646本に増えたのですが、コロナ収束に伴ってマスク使用率が下がり歩きタバコが増えたのでは？と妙に納得しました。少し汚いですが、リアルなゴミの写真をご覧ください。

昭和鯨城会では毎月第3水曜日 9:30 から、クリーンパートナーを実施しています。火ばさみをカチカチしながら歩道をきれいにして歩くのは、案外気持ちの良いものです。ご都合がつく方は、散歩がてらに気楽に参加してください。

### ・回収したゴミ数量

	今回	一年前
吸い殻	646本	520本
空き缶	32本	40本
ペットボトル	13本	10本
スプレー缶	2本	3本
可燃ごみ 45リットル袋	2袋	1袋



参加者



スプレー缶



ペットボトル



空き缶



不燃物

### 編集後記

117号は、2024年秋以降の昭和鯨城会の主要な活動と、会員からいただいた投稿を掲載しました。今後も昭和鯨城会への積極的な参加とともに、様々な投稿もお願いします。

昭和鯨城会 「昭和こじょう会便り」 2025年3月117号

発行責任者 高島 善行

広報委員長 伏屋 満 副委員長 中村 誠司

広報委員 杉江 恵理子、桐山 宏之

表紙写真 「獅子舞と猿回し」 佐藤 富士子 (28期 地域)

江戸時代に木目込み人形は京都上賀茂神社で作られました。新年には床の間に正月飾りと一緒に並べますと賑やかです。

名古屋市高年大学鯨城学園・昭和鯨城会共同発行